

【 地球内部にも Iron Road 赤湯 】

太古のロマンを秘めた 含鉄-ナトリウム-塩化物強塩温泉(高張性・中性・高温泉)  
2017.8.28.

まったく火山も何もない平地に沸く天然かけ流し 太古にルーツを持つ赤湯の秘湯  
武庫川河口近くの住宅地の中にあ秘湯 赤湯の銭湯「クア武庫川」

名湯有馬温泉と同じ泉質の赤湯 含鉄-ナトリウム-塩化物強塩温泉(高張性・中性・高温泉)



西宮市鳴尾の武庫川 河口近く 赤湯の銭湯 秘湯「クア武庫川」の赤湯

火山も近くはないな平地 甲子園球場の東 武庫川河口河口近くに湧き出た不思議な天然赤湯の温泉は  
マニアの間では有名な 知る人ぞ知る 有馬温泉と同じ泉質のかけ流しの赤湯銭湯

火山が近くはない地で沸く不思議な真っ赤な猛烈に塩辛い熱湯温泉

最近の研究から その湯は大陸プレートに閉じ込められた 600 万年前の太平洋深海の海水と判明  
プレートテクトニクス 南海トラフで沈み込んだ大陸プレートに閉じ込められた太平洋の海水が  
600 万年もかけて この地で噴出した鉄を含んだ強塩高温の赤湯の天然温泉 有馬と同じ泉質

日本各地の「Iron Road に沸く赤湯」に惹きつけられてきた私にとっても 火山が近くはない有馬の湯など、  
いったいなにがおこっているのか? 謎の温泉に興味津々で眺めていました。

謎だったこの「鉄を含んだ強塩高温」の泉質の謎が 最近の研究で、解き明かされたと聞く。

「600 万年前沈み込んでゆく大陸プレートに閉じ込められた太平洋の海水だ」と教えてもらって

まだ 入湯していないこの「武庫川温泉・クア武庫川」の赤湯には ぜひとも入らねば・・・と。

8月28日 ちょうど鳴尾浜の総合公園での秋季高校野球地区大会 母校の試合があったのを機会に、  
またとないチャンスと 帰りに立ち寄ってきました。

鉱泉でなく 天然かけ流しの濃厚な赤湯 みんなが秘湯と呼ぶにふさわしい太古にルーツを持つ温泉でした。

「クア武庫川 西宮市笠屋町3-10」は阪神電車武庫川駅の南西側 武庫川の西側に広がる鳴尾の住宅地の中を南西へ少し歩いたところである。クア武庫川の開店は午後3時 少し時間があるので、鳴尾浜 武庫川の河口からしばらく 武庫川の河原を遡って、一旦阪神武庫川駅まで戻る。

スマホのナビに「クア武庫川」と入れて、武庫川の土手の下にある阪神武庫川線の駅前から阪神本線の高架に沿って西へ進む。

兵庫医大の大きな建物の西側で 南に延びる鳴尾・新川筋の標識のあるT字路に出る。

この新川筋小さな放水路沿いの道を南へ。

阪神高速道路が走る国道43号線の高架橋をくぐると放水路に沿って遊歩道が整備された道沿いになり、間もなくこの道沿いに

「クア武庫川」が見えてくる。

武庫川駅から10分ほどである。

営業時間は午後3時から12時まで、

通常の銭湯と同じく、大人420円。



入浴料金表	
大人 <small>中学生以上</small>	420円
中人 <small>小学生以上</small>	160円
小人 <small>小学生以下</small>	60円
平成26年4月1日	



スマホの案内で午後3時少し前に到着。マニア風の数人と近くの常連さん10人近くが表で開店を待っておられ、3時きっかり、中に入ると銭湯そのままの姿。「大人・中人・小人」料金表も懐かしい  
脱衣場の向こうに、浴場が見える。



改装されてきれいになっていましたが、その際に内湯は普通の白湯、目当ての赤湯はその奥の露天風呂に変更された。露天風呂といっても、天井が抜けているだけの空間ですが、プンと鉄分のおい。かけ流しの文字通りの赤湯。その日の開店当初は酸化が進んでいないので色が薄い、だんだんと濃差を増してゆくという。真っ赤なお湯につかって、なめてみましたが、600万年を経て湧き出した赤湯 本場に辛い。実に濃厚だ。

最近ではスーパー銭湯など地中深く掘った鉱泉を沸かした温泉が多くありますが、真正正銘のかけ流しの赤湯。泉質表によれば、有馬温泉もクア武庫川 どちらも 含鉄-ナトリウム-塩化物強塩温泉(高張性・中性・高温泉と書かれていて よく似通った泉質の濃厚な温泉であることに違いはない。

有馬温泉 金泉の泉質 分析例

クア武庫川の泉質 分析例

試料1kg中の成分・分量及び組成			
<b>(イ) 陽イオン</b>			
成分	mg/L	mg/L	mg/L%
ナトリウムイオン(Na <sup>+</sup> )	13040	567.2	76.08
カリウムイオン(K <sup>+</sup> )	2630	67.27	9.02
アンモニウムイオン(NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> )	6.5	0.36	0.05
マグネシウムイオン(Mg <sup>2+</sup> )	20.0	1.65	0.22
カルシウムイオン(Ca <sup>2+</sup> )	2114	105.5	14.15
アルミニウムイオン(Al <sup>3+</sup> )	0.1	0.01	0.00
マンガン(II)イオン(Mn <sup>2+</sup> )	18.9	0.69	0.09
鉄(II)イオン(Fe <sup>2+</sup> )	79.0	2.83	0.38
陽イオン計	17910	745.5	100
<b>(ロ) 遊離成分</b>			
成分	mg/L	mg/L	
メタケイ酸(H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub> )	136.9	1.75	
メタケイ酸(H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub> )	274.5	6.26	
遊離成分計	411.4	8.01	
溶解物質計(ガス性のものを除く)	44.79	g/kg	
その組成成分(mg)			
銅(Cu)	0.005	未検	
鉛(Pb)	0.05	未検	
亜鉛(Zn)	0.04	未検	
バリウム(Ba)	0.01	未検	
硫酸根(SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> )	222.7	5.06	
塩素(Cl <sup>-</sup> )	—	—	
溶解ガス成分計	222.7	5.06	
成分総計	45.02	g/kg	
泉質 含鉄-ナトリウム-塩化物強塩温泉(高張性・中性・高温泉)			

試料1kg中の成分・分量及び組成			
<b>(イ) 陽イオン</b>			
成分	mg/L	mg/L	mg/L%
ナトリウムイオン(Na <sup>+</sup> )	13040	567.2	76.08
カリウムイオン(K <sup>+</sup> )	2630	67.27	9.02
アンモニウムイオン(NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> )	6.5	0.36	0.05
マグネシウムイオン(Mg <sup>2+</sup> )	20.0	1.65	0.22
カルシウムイオン(Ca <sup>2+</sup> )	2114	105.5	14.15
アルミニウムイオン(Al <sup>3+</sup> )	0.1	0.01	0.00
マンガン(II)イオン(Mn <sup>2+</sup> )	18.9	0.69	0.09
鉄(II)イオン(Fe <sup>2+</sup> )	79.0	2.83	0.38
陽イオン計	17910	745.5	100
<b>(ロ) 遊離成分</b>			
成分	mg/L	mg/L	
メタケイ酸(H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub> )	136.9	1.75	
メタケイ酸(H <sub>2</sub> SiO <sub>3</sub> )	274.5	6.26	
遊離成分計	411.4	8.01	
溶解物質計(ガス性のものを除く)	44.79	g/kg	
その組成成分(mg)			
銅(Cu)	0.005	未検	
鉛(Pb)	0.05	未検	
亜鉛(Zn)	0.04	未検	
バリウム(Ba)	0.01	未検	
硫酸根(SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> )	222.7	5.06	
塩素(Cl <sup>-</sup> )	—	—	
溶解ガス成分計	222.7	5.06	
成分総計	45.02	g/kg	
泉質 含鉄-ナトリウム-塩化物強塩温泉(高張性・中性・高温泉)			

成分分析書を見ると鉄イオン濃度 溶解物質量が若干有馬温泉金の湯よりも低い、非常によく似通っている。効能に影響すると考えられる濃厚な溶解物質量は どちらもすごい濃厚な溶解物質のある温泉である

有馬温泉金泉 溶解物質量 48.8g/kg 鉄イオン 79mg/kg )  
クア武庫川 溶解物質量 27.8g/kg 鉄イオン 15mg/kg

600 万年前の太平洋の海水ばかりに目が行くが、鉄イオンもまた、この600 万年の旅をしてきたわけである。この赤湯がたどってきた道もまた、地球の中をたどる Iron Road なんだと感慨もひとしおです。600 万年前の海水に地球の鉄分が濃厚に溶け込んだ温泉。鉄屋にとってはうれしい気楽な赤湯の銭湯である。屁理屈はさておき、気楽に手ぬぐい一つ持って ポケットにはワンコイン。これで たっぴり有馬気分も味わえる太古のロマンを秘めた赤湯の温泉。有馬金泉のあの混雑ぶりもなし。ゆったりと温泉を出て ぶらぶら 武庫川の土手に出ると吹く風が心地よい。ぶらり 一人行くおすすめの温泉です。なお 以前はひっそり、秘湯と言われていましたが、インターネットの中には秘湯として多くの記事が出ているのにもびっくりです。